



農政事情

キーマンに聞く

## 農村の振興をめぐる基本法の理念について (2)

全国山村振興連盟 常務理事 事務局長 實重 重実

と思います。

基本計画の意味は一体何かという問い合わせに通じます。世間の注目は

思います

自給率目標に集まっていますが、5年

に一度、多くの声に耳を傾けて、今後

の10年間を見通し政策のバランスのあ

り方を議論する機会になつて

いるので

はないでしょうか

中山間地域等直接支払のような

柱となるような施策が今回の基本計画

の見直しの中で出てくるのでしょうか

か。

農村の振興を全部カバーできな

い農水省の限界と、生産性にこだわる

政策をどのようにミックスして基本計

画に反映させるのでしょうか。

「そこには、世代間の軋轍のよ

うな問題もあるのではないか。米

価支持などで農業政策の恩恵を被つ

いた多くの高齢化し、農

業から離れた人も多い。一方、農水省

が努力せざるを得ない形でここ10年ぐ

らい特に力を入れているのが、次世代

の育成です。前世代の人たちからすれ

ば、農業をやめた後、もしくは農業を

縮小した後で、自分たちのこともしつ

かり支援してほしいと考える。それが

いかという議論が出てくる時期もあ

るかもしませんが、そのときは基本

が農山漁村に住みたいと思

る

法をどうするかという議論につながつ

いません

てもおかしくないほど大きな政策だと

思います

と思います

法をどうするかとい

う議論につながつ

いません

てもおかしくないほど大きな政策だと

思います

と思います

と思います

と思います

と思います

だと思います

と思います

だと思います

しっかりと調査してください、その上で必要があれば基準も検討してくださいとお願いしています」

「どうしても耕作放棄が解消できないところは林地化してもらいつらう税を使うとかいろいろ使い方はあると思います。それについて、このような法律がよく通ったなど感じています」

「政治決定されたこともすごいし、決定された制度の設計もすごいし、山村の立場からすると画期的なことです」

「農村振興局長時代の思い出をお聞かせください」

「就任したのは東日本大震災の直後でした。復旧復興への対応を含めて、農業農村整備事業の予算・補正予算が大きく伸びました。震災復旧への強い思いを込めながら、農業土木の皆さんに一生懸命執行してもらつたと思います。整備部長、次長、局長を務めさせていただいた事務官は、あとにも先に私だけです。それぐらい農業土木の皆さんと一体となつてやつてきました」とあります。

また、日本型直接支払の実現へ関与できたことも印象に残っています。当初、様々な議論があり、中山間直接支払多面的機能支払、それと環境保全支払の3本を日本型直接支払として制度をつくることになつてきたのですが、その議論は2年くらいかかると言

われていました。ところが議論が加速し、私が辞める直前の2013年(平成25年)の末に政策が決定しました。その後、現在までの発展経緯を見ています。その間に本当に良かつたと思っています。院や財務審議会等から批判を受けないのは非常にうれしいと思います。自分

の信条からしても、デカップリング、直接支払を増やすのは時代の流れですし、大事なことです。それは長い歴史から見れば、中間的な段階かもしれません。そういうものが育つってきたことを大切にしなければなりません。もう一つ、本当に苦労したのは諫早の問題です。局長であった2年半、長崎の人や佐賀の人に対応し、どちらの人を伺うことができる。今後のさら

て、確定判決に対する請求意義の訴え（2014年1月9日）を起こしました。それ以前は、開門義務がありましたがから開門するためのぎりぎりの努力もしました。ともかく、農業土木の皆さんも多大なエネルギーを費やしてきました。平行線が続く中で、苦肉の策として、確実に勝利を期待申し上げます。

※このインタビューは、11月22日に行われたものです。

### プロフィール

貴重重慶(さねしげ・しげさね)

1956年島根県安来市生まれ。1979年東京大学法学部卒業、農林水産省入省。2007年1月農村振興局整備部長。08年4月農村振興局次長。08年8月九州農政局長。09年1月総括審議官。11年8月農村振興局長。14年1月退官。同年6月農林中央金庫監事。18年8月全国山村振興連盟常務理事。

「まず、土地改良が国民の安全を守

る時代になつていています。1つは、災害防止。気候変動が激化していく中で、水も土も、保全することが国民の事務局長。

## 写真手帖

### 新しい国

外国への旅の実感は、降り立ボード目にしたときから始まるしばしの間、文字もまた景色の一

その意味からすれば、JR山周囲は、徒歩で行ける最も近いタ

中国語、英語、アラビア語、日

板が並んで、それはもう意味の

サインを送ってくる景色そのもの

いや世界が日本に溶け込みに溶け込んで行っている景色、念のプログラムをアップデート、いる最中の景色だとみる方が珍しい少しの時間でもその場所が確実に上書きされてゆく実会話、匂い、流れる音楽が、またな国に変わる期待感に変わらるだろう。

(新宿区にて)

